



2019年6月18日・26日放送

関節リウマチの診断と治療

総合病院土浦協同病院 リウマチ・膠原病内科
内科部長 梅田直人

司会者：まず始めに、関節リウマチとはどのような病気でしょうか？

梅田：関節リウマチは手指や手首、肘、肩、膝などの多くの関節に腫れと痛みが出る病気です。中高年の女性に多いですが、若い方や高齢者、また男性でも起こります。

司会者：どんな経過で病気が起こってくるのですか？

梅田：関節リウマチはある日突然に起こることは少なく、ゆっくりと症状が出てくる病気です。

だんだん手指がこわばる、動かしにくくなり痛くなってきたとか、手指や手首が何カ所も腫れて痛くなってきたという症状で、医療機関を受診する方が多いです。

司会者：どうして関節リウマチが起こるのでしょうか？

梅田：関節リウマチは自己免疫疾患のひとつと考えられています。免疫というのは細菌やウイルスなどの外敵が体内に侵入した場合、これを攻撃して排除するものですが、自己免疫疾患というのは自分自身を間違えて攻撃することにより起こる病気です。

関節リウマチの場合は関節の中で攻撃による炎症が起こってしまい、腫れや痛みが生じます。

司会者：遺伝病なのですか？

梅田：関節リウマチ患者さんのお子さんのほとんどは関節リウマチにはなりません。なので、いわゆる遺伝病とは異なります。でも、少しなりやすい体質が伝わる場合があります。

関節リウマチは世界中で病気を持っている人の比率がおよそ0.5%から1%程度で、日本には70~80万人の患者さんがいます。患者さんのお子さんは数%が関節リウマチを発症するといわれていますが、つまりお子さんの90%以上はリウマチにはなりません。

遺伝だけでなく環境要因も重要だと考えられています。

司会者：関節リウマチかなと思ったら、どこの診療科を受診したらよいのでしょうか？

梅田：いくつもの関節に腫れと痛みが出て数週間しても改善しない場合は、リウマチ科や膠原病内科、整形外科を受診してください。

司会者：診断はどのように行うのですか？

梅 田：関節や他の症状について問診をして、関節を含めた身体診察をし、血液検査などの結果を合わせて行います。

血液検査ではCRPや赤沈という炎症反応の数値や、リウマトイドファクター、これは時にリウマチ因子ともいわれるものですが、他に抗CCP抗体という自己抗体の数値もみます。

CRPなどの炎症反応の数値はいろいろな病気において、体に炎症が存在する場合は数値が上がります。この炎症反応の数値が高いからといって必ずしも関節リウマチとは限りません。

一方、抗CCP抗体は関節リウマチの患者さんの8割程度で陽性になりますが、リウマチ以外の病気ではほとんど数値が上昇しません。よって診断の鍵になる検査です。

これらの他にも関節のエコー検査や、X線検査も必要に応じて行います。

司会者：リウマチと似た病気はありますか？

梅 田：手指や膝などが痛くなる変形性関節症があります。関節リウマチと異なる点は手指の第一関節、手指の一番先の関節でDIP関節ともいうのですが、病初期からここに痛みが出る点です。第一関節におこる変形性関節症はヘバーデン結節とも言われ、関節が少しふくれて曲がってきます。

司会者：関節リウマチでは関節以外にも症状はでるのですか？

梅 田：間質性肺炎という免疫の異常で起こる肺炎を合併することがあり、咳が持続することがあります。間質性肺炎は細菌やウイルスによる肺炎と異なり、自覚症状があまりないことも多く、肺の聴診やレントゲンの検査で見つかることもあります。

司会者：治療はどのようにおこなうのでしょうか？

梅 田：抗リウマチ薬という種類のお薬を内服することから始めることが多いです。他に痛み止めも用います。

抗リウマチ薬はメトトレキサートという毎日ではなく週の決まった日に内服するお薬や、サラゾスルファピリジンやブシラミンなどの毎日飲むお薬があります。患者さんの年齢や、腎臓・肝臓などの機能に異常が無いかなどを確認してからお薬を選んで処方します。

また、症状の強い病初期などにステロイドホルモンというお薬を用いることもあります。

痛み止めは内服薬の他に、貼り薬や塗り薬も使うことがあります。

司会者：お薬を飲めば良くなるのでしょうか？

梅 田：抗リウマチ薬の内服治療だけで関節炎が良くなり、腫れや痛みがなくなる方もいらっしゃいますが、これだけでは治療効果が不十分な場合もあります。

他の治療としては生物学的製剤という点滴や皮下注射で行う治療が良く効きます。これは化学的に合成した薬剤ではなく、バイオテクノロジーにより生体で作る物質を薬物として使用するものです。日本では8つの生物学的製剤を関節リウマチ治療に用いることができ、いずれも高い効果が出ています。

病院で定期的に点滴や皮下注射をする場合と、自宅にて自分で皮下注射するやり方があります。

司会者：薬の副作用は大丈夫なのでしょうか？

梅 田：関節リウマチのお薬は一般的ななぜ薬などに比べると副作用が出やすいといわれています。肝臓・腎臓、血球の数値や肺などに異常が出ることがあります。細菌やカビなどに対する抵抗力が下がることもあり、感染症にかかることもあります。外来では検査を行いこれらに注意しながら治療していくことになります。

司会者：最後にメッセージはありますか。

梅 田：関節リウマチの診断と治療はこの10数年で大きく進歩しました。病気になった場合、早期の的確な診断が大切です。また、よい治療ができるようになり、患者さんに合わせた治療選択肢が広がりました。多くの関節に腫れと痛みが出て関節リウマチが疑われる場合は、医療機関を是非受診してください。